

## 令和5年度 三春町総合教育会議 会議録

- 1 招 集 日 時 令和6年3月19日(火) 午前10時00分
- 2 招 集 場 所 三春町役場2階大会議室
- 3 出 席 者 町長 坂本浩之、教育長 添田直彦、  
教育長職務代理者 太田文枝、教育委員 宗像俊樹  
教育委員 菊地和裕、教育委員 草野エリ
- 4 事 務 局 総務課長 宮本久功、教育次長兼教育課長 藤井康、  
生涯学習課長兼図書館長 嶋原健二、歴史民俗資料館長 平田禎文、  
児童生活センター所長 大内江利子、総務課庶務グループ長  
佐久間正浩、教育課学校教育グループ長 棚橋信輝、  
生涯学習課生涯学習グループ長 大内佳代子、  
生涯学習課社会体育グループ長 松崎俊介、教育課主査 星彩乃
- 5 傍 聴 者 なし
- 6 開 会 午前9時55分
- 7 閉 会 午前11時55分
- 8 会議の概要
  - (1) 開会
  - (2) 町長あいさつ
  - (3) 協議事項
    - ・三春町第1期教育大綱の進捗状況について
    - ・三春町立小学校教育のあり方について
    - ・その他
  - (4) その他
  - (5) 閉会

<教育課長>

ただいまより、令和5年度三春町総合教育会議を開催いたします。はじめに、町長よりご挨拶申し上げます。

<町長あいさつ>

本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

教育委員の皆様には、日頃より町の教育行政に尽力いただいておりますこと改めて感謝申し上げます。ご承知のとおり、この会議は首長と教育委員会で構成された執行機関同士が協議協調する場でありまして、さらに意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育の行政の推進を図ることを目的としています。

令和2年度に、町の教育振興のための施策に関する基本的な計画である、「三春町第1期教育大綱」を策定して、令和3年度より教育大綱のもとで、新たな教育施策を進めているところです。

本日は令和5年度の学校教育及び生涯学習にかかる事業を振り返るとともに、昨年5月から協議検討をはじめている町立小学校教育のあり方について、町当局と教育委員会との間で情報共有していきたいと考えております。限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をいただき、今後の教育行政をさらに進めるための有意義な会議にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

<教育課長>

それでは協議に入りたいと思います。なお、本日出席いただいております委員の皆様のご紹介につきましては、お配りしている次第の裏面に名簿をつけてさせていただいておりますので、こちらをもって代えさせていただきますのでご了解願います。

議長については、この会議の主催者であります町長にお願いいたします。

<町長>

それでは、さっそく議事に入ります。まず初めに「三春町第1期教育大綱の進捗状況について」です。進め方については、大きく全体を2つに分け、前半を教育課施策、後半を生涯学習課施策に係る進捗状況について、として進めていきたいと思っております。はじめに教育課施策について、教育課長から概要の説明をお願いします。

—教育課長説明—

<町長>

教育課の施策について委員の皆様からご意見・ご質問を受けたいと思っておりますが、ページご

とに進めていきたいと思います。1 ページについて、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

<太田委員>

三春町はコミュニティスクールとして学校運営協議会を設置しており、この学校運営協議会が大変機能的にいい働きをしていると思う。その理由としては、今年に入って町立小学校教育のあり方について、地区教育懇談会が実施された。今後の三春町の教育の動向を決める大切な会議であると思っている。町教育委員会と各地区の学校運営協議会の共催で開催されたが、参加者が多く町民の関心の高さが感じられた。

会の進行は町当局が行ったが、意見交換の司会については学校運営協議会の会長が行った。町教育委員会の説明についても、現在の教育の状況や今後の方向性について、データに基づいて説明していた。多方面から質問が出たが、的確に答えていてとても信頼できる説明に好感が持てた。何よりも地区住民の意見交換が充実していた。学校運営協議会の会長の手腕によるところも大きいと思うが、自分のため、子どものため、孫のため、地域みんなのために切実な訴えばかりだった。

学校運営協議会が中心となって、当事者意識を持ち、よりよい学校づくりのために大変機能していると感じた。今後も三春の教育の特色の一つとして学校運営協議会を育てていければいいと感じた。

<町長>

学校運営協議会の働き、実績というところでお話いただきました。他の委員の皆さんにもご意見いただければと思います。

<宗像委員>

太田委員と同じような感想を持ちました。地域柄はあったかと思うが、運営協議会長が全体の会議をまとめていて各参加者に意見を求めて、参加者も自分の思いを伝えていて、いい会議になったと思った。参加されている方それぞれにいろいろな思いがあって参加されていたということで今回の懇談会に関しては、いい会だったのではないかと思います。教育委員の私たちも勉強になった。

<菊地委員>

地元の方々が地区の想いを発言していて、それを聞くことができ情報共有できる場だったと感じた。こういった懇談会の場は、毎年継続された方がいいのではないかと思います。

<草野委員>

3人の委員とほぼ同じ内容になるが、私も教育委員になる前に学校運営協議会の役員をしていて、本当に地区の方が子どもたちのために真剣に考えていただいていると常々思っていたので、今回改めて実感することができた会議でした。

<町長>

委員の皆さんから意見をいただいたので、教育長の方から何かあればお願いします。

<教育長>

行政担当だけでなく、教育委員の皆さんに全部の会議に出席していただき、地区住民の方や保護者の方からいただく意見や質問にどう答えているのか、ということを共有して認識していただいたのは、とても大きな意味があった。

<町長>

2ページでご意見・ご質問がありましたらお願いします  
—なし—

<町長>

3ページで、ご意見・ご質問がありましたらお願いします  
<太田委員>

令和5年度の「一か月あたりの小学生の読書冊数」が落ちた原因を教えてください。

<教育課長>

ご指摘の通り、「一か月あたりの読書冊数」が小学生の児童が令和4年度の12.7冊から令和5年度は7.7冊へと大幅に減少しております。理由としては、今年度からタブレットのドリルを導入した。それに家庭で取り組む時間が増えている、あるいは学校でも取組時間が増加していることで、相対的に読書の時間が減少してしまったと考えております。家庭生活においても、タブレット端末を用いた勉強の動画を視聴する取組も進めていて、家庭あるいは学校の休憩時間等にタブレットでの学習を推進した結果、読書にあてる時間が減ったのではないかと考えております。

<町長>

4ページで、ご意見ご質問がありましたらお願いします。  
—なし—

<町長>

5ページで、ご意見ご質問がありましたらお願いします。  
<草野委員>

「三春町学校アドバイザー事業」本格実施4年目ということですが、中学生の学力低下が気になりました。また、同じアドバイザー事業で、8ページの先生の時間外勤務時間の目標達成率の低下の2点が気になっていたのですが、年々低下しているというのはどのようにお考えでしょうか。

<町長>

事務局から回答をお願いします。

<教育課長>

生活指標の①をご覧いただきたい。全国学力テストの正答率全国平均を100としたと

きの平均値で、目標値は小中ともに105に設定している。令和3、4、5と実績値を見ていただければわかりかと思いますが、令和5年度実績値として小学校は令和4年度よりも若干上がっているが、中学校は大幅に減っているという状況になっている。こちらのテストにつきましては、小学校6年生と中学校3年生が対象のテストとなっています。当然、毎年度児童生徒が代わることによる結果というみなし方もできる。ただ、学年によって学力差は出てくるが、全国学力テスト、県実施の学力テスト、それから町でも総合学力調査を実施している。さまざまな機会を通じて、児童生徒の学力については実態を把握するよう努めているところです。その中で、各学年でこのように学力差が出てきてしまったことについては十分把握をしたうえで、適切に対応しながら学力向上を図っていきたいと考えております。

なお、先ほどご質問がありました先生方の働き方という点でやや超過勤務が増えている状況があることですが、必ずしも子どもたちの学力面だけでなく、児童の安心安全などのさまざまな対応を図る中で先生方の働き方改革がまだまだ推進、浸透していない状況にもなっております。公務支援システムを導入していますので、さらなる浸透を図り、先生方の働き方改革についても、十分対応できればと考えているところです。

<町長>

田村高校の魅力向上委員会をやっていて、学力向上委員会で普通科の生徒たちの成績があまり良くない、なぜだろうか、と話題になっていた。これは公式な話ではないが、高校の先生方は中学生の学力が低いから田村高校の学力も低いと言っていた。

田村高校の1学年のうちの三春の子の割合は3割に満たないが、この結果を見てみると、中学生の学力低下はいったいどう考えたらいいものか悩ましい。

<宗像委員>

田村高校はテスト前の1週間はバイト禁止になっており、その期間は何をしているのか聞くと、何もしていないと言っていた。なぜかというと、テストが簡単で勉強しなくても点数が取れるからと言っていた。僕らの頃のテストのイメージは事前に勉強しないと授業だけでは難しいイメージだった。ただ今年は、田村高校が定員オーバーで、残念ながら三春の子も結構落ちていると聞くので、この辺から変わっていくかなと思った。

<教育長>

今年の3年生については、中学校の校長先生は頭を抱えていました。なかなか学力が身についていない子どもたちの集団だということで、校長先生の大きな心配の種だった。結果として特に田村高校・船引高校に町内からの不合格者が結構出てしまったことにつながっていることに対して、反省を踏まえて考えているところです。

25日の後期試験に向けて、作戦を立て直して進路実現のために動いているところですが、データは今回のものからも明らかで前年度から比べると、かなり下がってしまっている学年だった。私たちも県・町のデータで追ってきていて、とても心配していたが、やはりそのような結果が出てしまったというのが現実。教育委員会ではこの結果を踏まえて、底上げという言葉が適切かどうかかわからないが、中学生の進路実現のために中学校の学力データ

は小学校からすべて継続しているので、それぞれの小学校の学年でもう一回自分たちの受け持っている子どもたちの学力に、責任を持つべく学力向上に取り組んでもらうというのは来年度の大きな柱にすえて対応に当たっていきたいと思います。

中学3年生の学力が低いのは中学校の先生の頑張りが足りないのではなくて、そこまで大切なものを積み上げてこれなかったという学校全体の取組に起因しているものだという事を私たちは考えておりました。

<町長>

6ページで、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

<太田委員>

こども議会が河野広中没後100年記念の事業の一環として開催されたと聞いている。今年第1回ということで成果と課題並びに今後の実施予定について教えていただきたい。

<教育課長>

令和5年度第1回ということで河野広中没後100年記念事業の一環で、こども議会を開催しました。はじめての試みでさまざまな課題があったかと考えておりますが、成果としては町内の児童生徒が三春町の事を真剣に考えて、さまざまな情報を収集して質問をしていただけた点では非常に大きな成果があったのではないかと考えております。課題としては十分そういう子どもたちの疑問・質問に関して、時間をかけて丁寧に回答する余裕が事務局側になかったため、やや形式的になってしまったという反省点があります。

これらを十分整理し、令和6年度についても第2回こども議会を開催したいと考え、現在計画を立てております。課題の解消としては、あらかじめ学校の方である程度質問項目に関する大きなテーマを出していただいて、それに関して関係の役場の課の方でいったん町の取組状況等を説明して、ある程度町の状況を子どもたちと執行部とで理解を深めたうえで、こども議会に臨めるように準備、計画を進めております。

<太田委員>

ぜひ継続実施していただければありがたい。様子をユーチューブ等で見させていただいたが、子どもたちは一人の人間として自分の意見を述べて、町長や議員の皆さんにしっかり聞いてもらい、尊重されるという経験をして学ぶことの意義や楽しさを感じ取ることができたのではないかと思います。発表する内容も子どもたちはずいぶん調べ、学習をしたと思います。そのためには、きっと学校の友達と一緒に意見交換をしながら、どんな言葉で表現すれば町長さん等に聞いてもらえるかという表現力も磨き上げてきたのだらうと思います。返答・回答をもらったと思うが、それについて本当に実行されているかどうか、きっと参加した子どもたちは今後の推移についても、非常に関心をもって動向を見守っていると思います。そういう意味でここに書いてある「郷土愛の育成」というのは、三春をどうしていくのかということを考える機会として、非常に良かったと思います。ただ、関わる児童の数ですが、参加する子どもだけではなく、参加できなかった子どもたちをどうやって仲間にいれ

ていくかということが、今後大事だと思います。実施するにあたって、今回は第1回目ということで事務局側・学校関係者の多くの準備が必要だったと思います。やはり持続することが大切なので、毎年行うにあたって無理なくシンプルな形で進めることができるように、形を変えていくことも必要だと思います。今後ともぜひとも、こどもたちのアウトプットの場として定着することを望みます。

<町長>

実際に議会で答えている立場でいうと、事務局から説明があったように担当課と勉強の機会を設けるとするのはぜひやってもらいたい。大人の公式の議会も全員協議会という仕組みがあり、そこでは町長や担当課長だけでなく、担当者も答える機会がある。これをこども議会に置きかえて考えると、それぞれの担当課の職員がもし可能であればこんな仕事をしている、という話をさせていただくようなことがあると、よりよい場になるのではないかと思っている。今年、第1回目ということでかなり頑張っていたと思う。

<町長>

7ページで、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

三春町の教育として「特別支援教育」というのは注目されていると認識しているが、今現在も視察においでになることはあるのか。

<教育長>

視察という形ではありませんが、特別支援教育に関する照会は少なからず寄せられています。小学校には特別支援学級が12学級あります。知的学級が6、情緒学級が6、そしてそこには52名のこどもたちが学んでいます。827名がすべての数ですので6.2パーセントのこどもたちが特別な支援を受けている。中学生になりますと、4学級31名の7.4パーセントのこどもたちが特別な支援を受けている。ひとりひとりのこどもたちの個性や特性を把握して、こどもたちに応じた支援を目標とする学校教育の考え方、こういう形になっているのは県内でも珍しいといわれていて、その部分は私たちも大切に進めていきたいと考えています。なかなか新しい学級を作ろうとしても作れないので、時間をかけて形成してきたものが、継続していると認識している。

<町長>

8ページで、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

教育長との雑談の中で、三春の学校でぜひとも教えてみたいという先生が少なからずいるという話を聞いた。その辺を少しお話いただきたい。

<教育長>

ここ2、3年異動先は三春でお願いしますという先生が結構いる。郡山から通っているが、三春の学校は働きがいがあるので三春町内で転勤をお願いしたい、という人がいることと、特に中学校の先生方では最後は三春で、という方が多いです。そんなうれしいお声もいただ

いている。働き甲斐があることは、もっとアピールしていき良い先生を集めたいと思っています。

<町長>

9ページで、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。

<草野委員>

今年度からスクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの2名体制により相談支援に努めたとありますが、主に保護者や生徒からの相談がほとんどでしょうか。また、どちらが多いのでしょうか。

<教育課長>

基本的には、児童生徒からの相談ということになります。スクールカウンセラーにつきましては、教職員の相談もあります。数的には児童生徒からの相談が一番多いと捉えております。相談内容については、友人関係、家庭の相談やそれぞれ児童生徒が抱えている課題に関する相談が多いです。スクールソーシャルワーカーについては当然、家庭環境を含め、不登校傾向のお子さんやさまざまな経済的な問題を抱えているお子さんについて、子ども・保護者・関係機関との連携を図りながら問題解決に当たっている。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校、教育委員会を含めて、連携をとりながらさまざまな課題を抱えている児童生徒それから保護者、教職員に対応をしている。

<草野委員>

町だけでなく不登校、不登校傾向の子どもが増加していることがあるので、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの効果的な活用に向けて保護者も対象とした教育相談体制の確立と記載があるが、今、子どものことや学校とのことで悩んでいる保護者の方が身の回りにとても多い。そのため、悩んでいる、不安を抱えている保護者の想いに耳を傾けることもすごく重要なことだと思っています。しかし、先生はカウンセラーではないですし、日々の業務が忙しい中で一人一人の保護者の話に耳を傾ける時間を取るのはとても難しいことだと思います。ただ、保護者の立場からすると、話したいのは「今」なんです。ですから、いついつにスクールカウンセラーが来ますから相談してください。と言われても、その日は仕事で休めなかったり、またそこまで時間が空いてしまうと話さなくていいかと思ってしまったりする。逆にこういうことで不安が大きくなってしまったり、何でもない子ども同士の問題がいじめになってしまったり、逆に保護者の声を丁寧に聞くことで、いじめにつながるということもあると思っています。「いじめの認知件数のうち解消できた件数」というのが年々下がっていることも、保護者の声を丁寧に聞くことがあまりできていない、それも一つの小さな要因かなと個人的に思いました。もっとスクールソーシャルワーカーがいることで困ったらいつでも言ってください、と言える人と場所があればすごくいいと感じました。

また、不登校児童生徒の居場所として現在ある「あこがれ教室」はすごく素敵な場所で必



要です。昨年12月に閣議決定されたこどもの居場所づくりに関する指針にあるように、子どもが居たい、行きたい、やってみたいといったその子が安心して過ごせる場所、そして仕事をもっている親も安心して送り出せる場所があるといいと思いました。そして子どもが大きくなるにつれて、未就学児は健診等で保健師さんとの相談であったり手厚い相談であったりするが、大きくなるにつれてだんだん場所や人が少なくなっている印象がある。しかし、子どもも親も悩みが複雑化してくる傾向にあると思います。未就学から18歳とは書いてあるが、子どもと定義されなくなる年齢まで切れ目のない支援、体制づくり、その中にはもちろん福祉分野も含まれていると思うのですが、仕事柄、福祉にいるものですから、福祉につながってくる子がもっともっといと保護者や家族が困らずに済むのにとという印象がとともあるので、福祉分野にもどんどんつながってもらって、支援が必要な子ない子にかかわらず、療育施設等の各所からアドバイスをもらいながら学校や親、地域みんなで子どもたちの人間力を高めるために、町全体で進めていってほしいと思いました。

<教育長>

特に今年度、スクールソーシャルワーカーについては活動の役割と動き方を明確にして各学校に回数を重ねて行くようにしてもらっています。なかなか、そこから保護者の方につながる、見えにくい部分ではありますが、件数・内容からみても画期的な変化が見られてきていると思います。スクールソーシャルワーカーそのものは、ワーカーが動いて問題を解決するというよりは、そこにある問題をさまざまな分野とつなぎながらケース会議をもって、より実効的な取組を進めるということが第一義です。例えば、役場でいえば子育て支援課や保健福祉課とつなぎながら一人ひとりの子どもたちがいま困っている状況に対して、何ができるのかというところを明確にして進めるようになってきています。ただ、保護者の方から直接ということではまだないので、学校を通してという形になっているので、草野委員が気になるのはその部分かと思いますが、これを継続していくとさまざまな情報がすぐ私のところに飛び込んできて、対応も迅速にできるものだと考えております。

<町長>

私からもいじめの重大事態の申し出があった年度でありますので、触れないわけにはいかない。行政から見ると「校長先生の管理下なので」ということですので基本的な進め方をやっているけど、使いつらいというのはなんとなくわかるような気がする。今回のいじめの件も報告書を見て思ったのですが、初動できちんと専門家の人がその場に行けばこんなことにならなかったのではないだろうかと思いました。やはりタイムラグがありすぎた。申し出があつてからしばらくしてからようやくということで、担任の先生に任せている部分が多いという印象を強く持ちました。一生懸命やっているんです、悪いこともやっていないし、嘘もついてない。けれども、一人に任せてしまっているからマンパワーで追いつかずに、ずるずる遅れてしまって保護者の方の誤解を生んでしまい、結果的にこういう事案になった。これから我々がしなければいけないのは、我々行政としても初動で入っていく、それぞれの課で何か問題が発生したらすぐ出動できる体制を作らなくてはならない。

そして、学校の方もすべて校長の指揮監督のもとというのはよくわかるが、とにかく初動で入っていかないとこじれるということを学習したものですから、その辺は改善しなければいけないところ。改善策について検討する時間を作った方がいいと思います。

我々が今回の事案で一番悩んだのは、真実と事実の区別です。事実というのはどこから見ても間違いのないこと。真実というのはその人を通して述べられた事実ということでどうしてもその人の主観が入ってしまう。そのため、被害者だとおっしゃる保護者の方の意見と学校ではこのように対応しましたと、どちらも真実でぶつかるため、どちらも嘘は言っていない。ただ、事実とは微妙に異なる部分があって悩ましかったというのが正直な感想です。

いずれにせよ、初動が大事だと思いますので前向きに体制を整備しなければいけないと思います。

<太田委員>

特別支援の方では療育施設や行政と緊密な連携ができています。それが三春の教育だろうと思うのですが、それを不登校やいじめにも同じようなネットワークが垣根を低くしながら使えばいい。三春にはすでにあると思うので、ぜひそれを生かしてほしいと思います。

<町長>

これは役場内の組織だけでも相当な関係課がありますので、あとは事務レベルで論点・課題整理をお願いしたいと思います。

<町長>

10ページで、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

特にないでしょうか。保育所幼稚園の方から小学校とのつながりをもう少し、従前は頻繁にあったが今はあまり回数がないということで要望が出ていますので、改善していただければと思います。これは町としてのお願いです。

<町長>

ここからは生涯学習課ということで概要の説明をお願いします。

－生涯学習課長説明－

<町長>

生涯学習グループ所管の11～13ページで、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。

<宗像委員>

先日、まほらで行われた石田智子さんの作品とアンサンブルコンサートで、ホワイエでアルコールが出たがホールの中で飲食できないのは、いつまでなのかという話をされるが多かった。飲みながら聞きたいということだと思うが、ホールでの飲食は今後も難しいのか。

<生涯学習グループ長>

ホールの中での飲食は、当初から禁止させていただいております。可動式の椅子を取り払えば可能ではないかというご意見もありますが、2階のシートは取り払うことができませんので、今後も引き続き、飲食できないような形で対応していきたいと考えています。ただ、町民の方々からそういったご意見が出ているということのことを踏まえて、今後検討して参りたいと思います。

<町長>

他にございませんか。

<菊地委員>

11ページにさまざまな会議について記載があるが、内容と成果についてわかる範囲で教えていただきたい。

<生涯学習課長>

各選出していた委員の皆さんに町の進捗状況をご説明して意見をいただくとともに各関係団体、各団体で行っていただいている社会教育に関する活動や各地区での困っていること、問題点を伺って、次年度あるいはその会議以降の活動に反映させていけるようにさまざまな意見をいただいております。そういったことで会議を開催して実施しているところです。

<町長>

つい先日、生涯学習を進める会議があったばかりだが、最近の傾向としてやはり高齢化が進んできて、後継者をどうするかということで悩んでいる団体がものすごく増えてきたというのが実感です。問題課題というと自分の組織のこれからをどうしようというような、今までは目的があってその会議ができていたわけですが、その存在自体が危ぶまれてきていると感じている。

<町長>

社会体育グループ所管の14～15ページまでの内容について、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。

—特になし—

<町長>

歴史民俗資料館所管の16～17ページの内容について、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

<菊地委員>

16ページの施策1「文化財保護の推進・支援」とあります。紫雲閣の修繕が終わりました。この間、「三春の古建築講座」で長田先生をはじめとする、修繕や建築に携わった方のお話を聞いたが、町民の皆さんに紫雲閣の着手する前の調査や修繕の経過を共有できたことは、大きな意義があったと思う。三春町にはそのような文化財がまだ眠っていると思う。

地域の末端から情報を吸い上げるような仕組み作りも今後必要だろうと思います。

<歴史民俗資料館長>

施策1で「文化財保存活用地域計画の策定」とあがっている。三春町の文化財を今後どのように保存して活用していくかという計画を令和8年度策定に、向けて作り始めております。この事業は来年度から地域に出て、どういった文化財、文化財とはいえないけれど地域の誇りになるような宝を紹介していただいて、集めて、今後保存してどう活用していくかを地域の方に伺って、地域の方と一緒に計画を作っていく予定であります。皆さんにもご協力いただきながら、進めていきたいと思っております。

<町長>

18～20ページの内容についてご意見・ご質問がありましたらお願いします。

<草野委員>

施策1の「有用図書資料の収集」の部分で、桜ホールに除籍本・寄贈本が置かれていてご自由にご覧ください、お持ちください、とあるが本を見に来る町民の方が結構いて、いろいろな方が利用されていてとてもいい取組だなと思っています。入館者数が昨年より減っているということだが、延長時間帯の利用者は微増しているということ、どのくらい増えているのかということと、遅い時間なので仕事されている方、田村高校の部活帰りの子など、どのような年代の利用者が多いのか教えていただきたい。

<生涯学習課長>

時間帯の各年度の実績が手元にありませんので、後ほどご報告させていただきます。19時まで1時間延長したことで、令和4年度は704人、全体の約4%の人数について今現在来ていただいています。過去のデータについては、確認して後ほどご報告します。

<町長>

21～23ページの内容についてご意見・ご質問がありましたらお願いします。

—なし—

<町長>

特になければ協議事項（1）は以上で終了いたします。

次の協議事項、（2）三春町立小学校教育のあり方について、事務局より説明をお願いします。

—教育課長説明—

<町長>

あちこちで町はどう考えているのかという話を聞いておりますので、そろそろ町の考え方をまとめないといけない時期になっていると思っております。今現在の私自身の考えとし

ては、再編。非常に子どもの数が少ない学校については、残念ながら再編するしかないと思っております。理由は後ほどご説明します。

もう一つ、再編だけであれば、再編問題と表現しているわけです。小学校教育のあり方という名前を付けたのは理由がありまして、再編統合するにしても小さい学校で残すにしても、本来子どもたちが自立して、将来自分で稼いで家族を養ってそして地域に貢献して、というような子どもを育てるためには、どういう教育をすればいいのかを、三春町として徹底的に研究してこれがいいというようなものがほしいと思っておりました。

また、小規模でやっている学校というのに大変興味があり、麻布研究所の方がいらっしやったときに、統合を一生懸命やっているのは先進国の中で日本だけだと教えていただいた。他の国では少人数のまま縦の年齢構成でやっていて教育効果もあがっているし社会性も身につけて社会に出ていて、これが世界のトレンドなのだと聞き、三春町でもできるかなと思っていた。しかし、統計が出てきて、それをやるにしてもさすがに人が減りすぎて無理ではないかと教育長から忌憚のない話も聞いていて、諦めざるを得ないのかなと迷っている。アンケート等も行い、運営協議会でも議論を重ねてそれを寄せていくとほぼほぼ再編の方向なのかなと思う。地域振興は別枠で考えていかなければいけないというのが個人の考えです。

これから皆さんの意見を聞いてということにはなるが、再編という結論を出すにはまだ早いのではないかとのご意見があれば、町としても考えていかなければいけないが、もうそれほど結論が変わらないのであれば、町としては「再編について進めて参ります」というように発表する時期になっているのかと思っております。できれば小さい学校のままこれからも続いてほしいが、さすがに物理的に無理だということになれば、諦めざるを得ない。であれば、学校は統合するけれどもこういった形で三春らしい教育は担保します、三春町では今回の再編に伴って教育の方向性を作りましたからこれで取り組んでいきますので、箱としては大きな入れ物になったが内容としては個別にきちんと対応できますからというところまでここ何年間で準備していかないと、学校の存続自体が危ぶまれる年がまちがいなく来る。

できれば今年の早いうち、令和6年度の早い時期に発表したいと話していたが、統合するのであれば、「統合します。ただし、こういうことで教育の質は落とさないで頑張ります」というのは最低限やるべきと町長個人として思っている。今までは地域から「統合してくれ」という声が上がらない限り、統合は検討しないということできたが、あの人口統計を見せられてからは地域の声が出るのを待っていたのでは、来年から急に子どもが減るのにどうするということにまちがいなくなるものですから、役場で今まで検討しないと言っていたと言われたりもするが、数年後に現実がみえてきた。迷いもありつつも再編せざるを得ないかと考えている。それに対してご意見等いただきたい。

<太田委員>

教育懇談会に出席してみて、今度小学校に子どもを入れる保護者の声がかみでした。資料

にも記載があるが、「学校は楽しくて友達がいっぱいできる場所」だと自信をもって送り出せないという保護者や「早く再編してください。時間がない。」というような声があった。データにも表れているが、小学校の保護者は満足している方が多かったが、未就学児の保護者は非常に不安が大きい。しかし、それに対して私たちは反論できないというか、1人でも楽しいと言うのは難しい。過少規模とはいうが、1クラスの人数が1人とか2人になったら、今の教育はなかなか維持できないと思いました。

<宗像委員>

教育委員になって10年くらいだが、教育委員になったときからこの話はずっとある。その当時、沢石小学校は1学年10人くらいで少ないと感じたが、縦のつながりがすばらしくて、こういう学校はすばらしいなと思っていて残してもいいと思っていたが、さすがに1人ではどうなのだろうかと思う。そうはいつでも多ければいいというものではない。三春小で複式学級の方がいいという意見の方がおり、あとで理由を聞いたらクラスがまとまっていないことやクラス替えがないということが不安で、複式学級に興味を持ったという方もいた。合併になったはいいものの、こんなはずじゃなかったとならないように丁寧にやるべきだと思っている。

<菊地委員>

小学校中学校の児童数が減ってきているのは全国的にやむなし。地域から話があがるとするのは現実的には難しいと思う。町としての考えを示して、それに対して町民の方と議論するという次にステップに進むのがいいと思う。人口が増えればこういった話はないはずなので、これから生まれる子やこれから入学を控えているお子さんは被害者なのではないかなと思ってしまう。丁寧な説明をしたうえで、進めることが大事だと思う。

<草野委員>

地区や立場によって意見に違いがあり、地域の方であれば人口減少・少子化対策をどうにかしてほしいという意見が多かった印象がある。保護者であれば、集団生活になじめないのが心配なので統合してほしいという意見も印象的でした。ある程度の方向性を示してから説明を聞きたいという意見もありました。保護者の方は皆さん、やはり子どもにとっての環境を第一に考えてなるべく早く動いてほしいという意見が多かったという印象です。中妻では保護者の出席者が多いイメージだったが、全体的に保護者の方の出席率が低いと思ったので、保護者の方に話し合いのテーブルにまずついてもらうにはどうしたらいいのかなと思った。私自身としてはいろいろなご意見を聞く中で小規模校がいいとか、岩江三春のような規模の学校がいいのかメリットデメリットあり、どちらがいいのかわからないが、学年に1、2人というのは難しいと思う。やはり大事なのはどちらにしても一人ひとりの子どもを大切に育てていく、子どもを第一に考えてどうしたらいいのかというその軸をしっかり考えていかなければいけないと思う。

<町長>

保護者の出席率が低かった傾向にあるということだが、今後運営協議会等で補完する考

えはあるのか。

<教育課長>

今のところはまだ検討中です。

<町長>

教育長の方からはもう少し時間くださいと言われていまして、検討を続けていただければと思います。

<町長>

協議事項（3）のその他ですが、何かあればご発言をお願いします。

ーなしー

<町長>

それでは、協議事項については以上で終了といたします。進行を事務局にお返しします。

<教育課長>

以上で、本日の会議は終了とさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。